



2025年8月発行

恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島
〒509-7203 恵那市長島町正家後田 1067-71

TEL 0573-26-1111(内線 208)

FAX 0573-25-7129

MAIL oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

『「話そう!語ろう!わが家の約束」運動って何がいの?』

飛騨地区家庭教育学級応援通信「ひだっ子」7月号より引用

楽しい!「話そう!語ろう!わが家の約束」運動

岐阜県では、親子や家庭内の豊かなコミュニケーション(ほめる・励ます・アドバイスする・一緒に取り組むなど)を生み出すことを目的とし、「話そう!語ろう!わが家の約束」運動を推進しています。

< 運動のよさ >

- 1 各家庭の状況に合わせて(めあて 取組期間など)取り組むことができます。
 - 2 家庭の豊かなコミュニケーションは、わが子の自己肯定感(安心感・所属感)を高めます。
 - 3 わが子の成長を保護者自身の成長と重ね合わせて捉えることで、保護者自身が子育ての肯定感を高めることができます。
 - 4 園や学校のテーマ(課題)を家庭と共有して取り組み、同じ目線で子どもを育てることができます。
 - 5 非認知能力(数値では測ることができない力)を育てることができます。
ひにんちのうりよく
- *「自制心(我慢する力)」や「グリット(やり抜く力):Guts(度胸)・Resilience(復元力)・Initiative(自発性)・Tenacity(執念)」は、大切な非認知能力だと言われています。
- *日本人選手として初めて MLB 殿堂入りを果たしたイチロー選手の「自分の能力を生かす能力は別にあることを知っておいてほしい。」というメッセージからも、非認知能力を育てることの大切さが伺えます。
- 6 わが子の保護者への援助希求(SOS)をしやすく、保護者がわが子の援助希求(SOS)を受容共感しやすい関係を培います。

コロナ禍のときには、在宅型の家庭教育学級として様々な工夫が進んだ取組です。

例えば、「ノーメディアデーや、メディアコントロール週間」は、中学校のテスト週間に合わせて、幼保・小中など連携して実施しました。兄弟姉妹がいる家庭では、学習習慣づくりのよいきっかけになりました。また、教育講演会や家庭教育学級で「情報モラル」など学んだ後にこの運動に取り組むことで、より意図的、焦点化された内容で家庭におけるよりよい習慣づくりができました。

特に、各家庭におけるスマホ・タブレット使用の約束づくりは、学校での正しい使用を家庭で支えることにつながり、子どもたちをスマホ依存、ゲーム依存から守る取組にもなります。

いずれも単一の家庭だけでなく、多くの家庭で取り組むことで園や学校の教育力、家庭の教育力を高める取組となることが期待されます。

小学校 歯科指導の取組を保護者とともに推進

土岐市立妻木小学校 家庭教育学級

3年生親子歯磨き教室 防災と歯科

時期 令和7年6月19日(木) 13:45~14:30

場所 土岐市立妻木小学校

講師 印南 知哉 さん(土岐市すみれ歯科院長)

参加者 3年生児童29名とその保護者、PTA母親委員6名



3年生は乳歯から永久歯への切り替わりの大切な時期

親子で口腔ケアの大切さを知り、歯磨きを実践



印南先生の講話を熱心に聞く3年生児童とその保護者

土岐市立妻木小学校で、3年生児童とその保護者を対象に、「親子歯磨き教室」を開催しました。乳歯から永久歯に生え変わるこの時期ならではの大切な授業です。その内容を子どもだけでなく、保護者にも参加してもらい「でこぼこした歯をじょうずにみがこう」をより効果的にする取組でした。

この取組には大きな意義が3点あります。一つ目は昨年度、コロナ禍で途絶えていた「親子歯磨き教室」を学校主導で再開したことを今年度は、PTA保健母親部会が引き継ぐ形で発展、実施していることです。

二つ目は土岐市が大切にしている、「防災時の口腔ケア」について学校歯科医と連携して実施したことです。

三つ目は保護者の高い参加率です。この日は平日にも関わらず、93%の方が参加されました。

○ 3年生親子歯磨き教室 ○ 「でこぼこした歯を上手にみがこう」

- 1 めあて
- 2 学校歯科医さんのお話
- 3 活動の説明
- 4 磨き残しの多い歯を見つけよう
- 5 よごれを落とそう
- 6 感想
- 7 片付け

お話をされる印南先生



<防災と歯科 お話の一部>

災害時こそお口のケアが大切!
体の健康、あなたの命を守ります
災害時はむし歯・歯周病になりやすく、悪化しやすい
→歯磨き不足で口の中が不潔になり、細菌が増える
この細菌が、唾液とともに肺に入ると、誤嚥性肺炎が起きる

土岐歯科医師会は、令和6年度から、「避難所生活を想定した歯磨き指導」(学校教育の中の防災と歯科)を市内の小中学校で実施しています。土岐市は、口腔(こうくう)ケアに力を入れており、特に小学校では、学校歯科医や養護教諭らが、児童の歯磨き指導に、熱心に取り組んでいるそうです。

この日の授業には、おりべネットワーク、土岐市役所の危機管理室の方が取材に来校してみえ、妻木小学校の取組の注目度の高さがうかがえました。

<参加した児童の感想から>

歯と歯ぐきの間をもっとしっかりみがこうとおもった。災害のときは、できるかぎり口の中をせいけつにしようと思った。

<参加した保護者の感想から>

思ったよりも磨き残しが少なかったと思いました。これからも仕上げ磨きをしてあげようと思っています。

日頃からお子さんの仕上げ磨きをしている保護者もたくさんみえました

活動を支える保健母親部会



←司会進行をされた保健母親部会部長の渡邊さんを含め6名の委員がこの授業の準備や片付けを行

ないました。また、親が欠席した児童に対応し、一緒に染め出しなどを行い、見届けました。昨年、この教室は授業参観日に行われましたが、兄弟姉妹がいる方は、他の子の授業が参観しにくかったという声がありました。今回は、その改善点を踏まえての実施でした。

保護者のニーズに対応し、学校、歯科医師会など他機関との連携を図った素敵な家庭教育学級でした。

保護者と地域の方が教育講演会を聞いて「学び」を共有

中津川市立山口小学校 PTA 家庭教育部主催

子育て講演会! 「らく・楽子育て ~子どもは育てられて育つ~」

子育ての在り方について一緒に考えましょう

日時 令和7年6月27日(金) 10:40~11:25
 講師 永治 洋子 さん(土岐市教育支援センターIKOT SSW)
 参加者 保護者・地域のみなさん約30名



教育は温かい家庭から・・・親が一番身近なモデル



山口小学校は今年度「わくわく山口小タイム」を設定し、広く地域、保護者のみなさんへ学校を公開する取組を行っています。今回は、その取組の一環でもある授業参観日に行われた PTA 家庭教育部主催「子育て講演会!」の様子を紹介します。本日の講師は、永治洋子さん(現在、土岐市教育支援センターIKOTにてSSW:スクールソーシャルワーカーとしてご活躍)でした。これまで、瑞浪・土岐市にて校長を歴任され、たくさんのお子様を育て・保護者と接してらしたご経験から、子育てについて幅広い内容でお話されました。講演の一部を紹介します。

わくわく山口小タイム
 今年度、山口小学校では、「豊かな体験の場」「多様な立場の人と関わる場」をたくさん設定します。それは、子どもたちに、普段あまり触れ合うことのない人たちの中でも堂々と自己表出できる力を育みたいと考えるからです。」

お話の内容(概略)

- 1 社会の変化
- 2 子どもの変化と特徴
- 3 子育てに対する基本的な考え
- 4 子育てのポイント
- 5 親の構え
- 6 まとめ

「正しい学習」

- ・子どもは自分の思い通りに行かないと泣いたり怒ったりします。そんなとき、暗黙のルールではなく、具体的な姿や行動を言葉で伝える「正しい学習」をするチャンスです。
- ・「できること」「難しいこと」を整理し、「できること」を活かし、「悪い」はどうすれば「よい」になるか、具体的に伝える
- ・苦手なこと「スモールステップ」で、できるようにしていく環境ルールを守れる子から、自ら考えて進んでできる子へ

「指示の工夫」

- (C:Calm 穏やかな C:Close 近くで Q:Quiet 静かな声で)
- ・どんな的確な内容の指示であっても「荒々しく、遠くから、大きな声」で言われたら子どもは動かない、動きたくなくなってしまう

「まとめに・・・」

- ・子育てに「遅い」はありません。関係はいつでも、ここから大人も子どもも一緒に育っていきましょう
- 「(家庭が子どもを)安全に泣かせてあげられる場所に」

●・・・わくわく山口小タイムの取組もあってこの講演を「保護者と地域の方」が一緒に聞いてみえました。家庭と地域が連携して子どもたちに接する貴重な共通理解の場になったことと思います。

家庭教育部長の挨拶



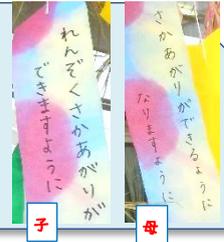
お話を聞いて・・・なかなか「らくらく子育てにならない」でいます。子どもにはつつい「～すべき」というように接しがちです。子どもを型にあてはめすぎていると反省しています。ただ、早寝・早起き・食事など、子どもの将来を考えるとしっかりやらせたいなど思っています。ゆったりと思いつながらも「9:00 に寝かせられるべき」など、追い立てられるような感覚もあります。今日のお話を伺って、大いに自分の子育ての参考になりました。

園庭開放の機会に親子のふれ合いづくりを

多治見市立小泉保育園 園庭開放 なかよしひろば

七夕飾りを作ろう!

日時 令和7年7月3日(木) 10:00~11:00
 担当 市原園長先生、伊藤副園長先生、永冶先生
 参加者 0・1・2歳児とその保護者5組



子

母

親子で願いをこめて七夕飾りをつくったよ!



多治見市では市内の保育園・幼稚園で未就園児を対象とした園庭開放を実施しています。小泉保育園でも、年間計画を作成し、園庭開放を園が大切にしていることを味わってもらえるように工夫して行なっています。右の案内からわかるように、貴重な親の学び、親子のふれ合いの場ともなっています。

今回は、この7月に行われた“園庭開放”(なかよしひろば)「七夕飾りをつくろう!」について紹介します。

本日の活動内容

- 1 市原園長のお話
- 2 歌「たなばたさま」
- 3 パネルシアター(七夕のお話)
- 4 七夕飾りの製作
- 5 記念撮影
- 6 個別の懇談・園内見学



パネルシアターの様子

←本日の活動からわかるように、楽しく「七夕飾りをつくる」ことができるように、「七夕という行事」を親子で楽しめる配慮がたくさんありました。市原園長先生からは「保育園の子どもたちは、輪つなぎや星つなぎ、貝殻つなぎも製作しています。短冊と一緒に笹に飾ることで、神様に願いをつなぐ、夢をつなぐことになる」というこの活動の意義についてのお話がありました。「たなばたさま」の歌を歌ったり、「彦星さまと織姫さま」のパネルシアターを見たりしました。

そして「七夕飾りづくり」です。お子さんは0歳から2歳までと差がありましたが、その発達段階に合わせた製作ができるように用意されていました。子どもたちは、飾る笹を選んだり、シールを器用に自分ではがして貼り付けたりしていました。親子で製作を行いますが、子どもができる場所は、子どもにやらせてみえる保護者の姿勢がとてもよかったです。園の先生の周到な準備のおかげで、楽しい親子製作の時間となりました。子ども・保護者、一人一人を大切にしている小泉保育園のすてきなところも伝わったことと思います。製作した七夕飾りのおかげで、家でも「七夕」の行事が味わえたのではないのでしょうか。

【参加された方にお話を伺いました】

・3人目のお子さんと参加

上の二人とも、小泉保育園でお世話になりました。園の様子はだいたいわかるのですが、今回は、この子とじっくりふれ合えろと思って参加しました。3人子どもがいると家では、どうしてもじっくりと付き合える時間が限られてくるので、今日はとても有意義でした。

・お母さんとお子さんで参加されたお父さん

今日は、仕事だったのですが、都合をつけて参加をしました。子どもが3歳になったら、どこの保育園にお願いするか考え中です。今日の活動も楽しくできて、園選びの参考になりました。

【園庭開放のご案内 4月の園便りより】

小泉保育園に遊びに来てください!

今年度、小泉保育園では、未就園児のお子さんの遊び場として、お母さん同士のコミュニケーションの場として、また育児相談ができる場所として利用していただけるよう、「なかよしひろば」を計画しました。ぜひ、子どもと一緒に遊びに来てください。

園が大切にしている活動が体験できる場となっています。

今後の計画 *毎週月曜日は園庭開放をしています*
 10月16日(木) かけっこに参加しよう!(未満児運動会)
 11月10日(月) 運動遊びをしよう!(サーキット遊び)
 11月27日(木) おすび座人形劇鑑賞



製作には、子どもの成長、発達においてとても大切な要素がたくさんあります。例えば、シールを選び、自分ではがして貼ることで、指先の巧緻性が養われます